

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394700039		
法人名	株式会社 イズミ		
事業所名	グループホーム いわくらの泉(1階)		
所在地	愛知県岩倉市八劔町井ノ下20番地		
自己評価作成日	平成25年07月31日	評価結果市町村受理日	平成25年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigvosvoCd=2394700039-00&PrefCd=23&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル2階		
訪問調査日	平成25年9月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「絆」をテーマに笑顔と心を大切にしている施設です。毎月恒例のモーニング、外食レク、春と秋の遠足、ボランティアさんによる催し物など行事満載です。地域との交流の場となるように目指しております。毎日午後から近くのスーパーへ買い物へ入居者様と行き、楽しんでおります。また今年から地域のゴミ拾いに入居者様と取組んでおります。主に入居者様には掃除、食器拭き、洗濯などを一緒にさせて頂いております。他には今年から散歩や踏み台昇降などリハビリにも午前中を中心に取組みました。午後からはレクリエーションを通して皆様と交流を図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から三年目を迎え、地域との関わりも広がり新しい馴染みの場所や人に支えられ、地域に馴染んだ生活ができるようになった。理念の「絆」を基本姿勢に、入居者とその家族との信頼関係を大切に温めてきた。納涼祭や旅行の実施、個別レクリエーション、運営推進会議の方法やケア記録等、日々のケアの中から改善できるところは着実に改善を図り運営やケアに繋げている。また、更にきめ細やかなケアをしていくために、様々な方面からの見直しをしていきたいとする管理者や職員の熱き想いが感じられる。それぞれの特技や個性を活かした絵や作品を飾った居間や居室で、百歳を間近にした入居者を初め皆が、職員の気配りあるケアに支えられ笑顔を絶やさずのんびりと過ごしている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務所、休憩所に提示しております。笑顔を大切に、日々のケアを行っております。	理念は誰でもいつでも確認し、日々のケアに活かせるように事務所や玄関に掲示してある。入居者の増加や職員が交代する中で管理者は、職員の全てが理念の共有を図りながらケアに努めているかを確認する機会の必要性を感じている。	3年目の節目にあるので、職員と一緒に理念の意義とケアの実践を振り返る機会を作り、よりきめ細やかなケアに繋げていくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の買い物や週一の近所のゴミ拾いなどして地域に交流を図っている。毎月のモーニングも継続中。夏祭りにも参加しております。近隣の畑の方には駐車場を利用して頂いております。	地域の行事に参加したり、日々の買物や喫茶店に出かけたりして交流を継続している。今年から事業所で納涼祭を開催し、地域の参加も得ている。週1回地域のゴミ拾いを利用者と一緒にしたり、校区の廃品回収にも協力をしている。また、生きいき生活サポートを利用するなど地域とのつながりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人に理解と支援方法を活かしているかわかりませんが地域の方々に勉強会を開催できたらと考えております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回第三火曜日 13時30分～実施しております。話し合いや報告をさせて頂いております。	家族や区長、民生委員、包括せんセンター職員の参加を得て実施し、意見や要望は運営に反映している。会議録は家族に配布している。今年度、多くの家族の参加が得られることを目的としてアンケートを行い、参加者が増えた。会議録の様式改善や書記、司会者を取り入れた運営方法の改善を行うなど、会議の充実を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールや必要時には市役所を訪れたり、電話にて報告しております。	運営推進会議への出席、代行申請や事業所の報告業務等で市の担当課を訪れたり、メールや電話等で連絡を取り、協力関係を継続している。週に1回介護相談員の訪問がある。小・中・高等学校で認知症知識を広める活動に参加するために、市で開催された認知症養成講座を受講している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠をしないように取組んでいます。夜間は20時～防犯の為施錠をさせていただきます。マニュアルを作成し、職員と取組んでいます。	身体拘束マニュアルが作成されている。玄関は防犯対策上、夜間のみ施錠している。エレベーター表示ボタンはさりげない絵で目隠し、施錠はしていない。事務所や玄関ホール、居間のドアは開放され、職員の見守りやチャイム等で配慮し、極力拘束感のない自由な環境が提供されている。	施錠や目に見える身体拘束のみではなく、スピーチロックや表情、表現等も含め職員の対応によって感じる拘束の意味を、マニュアルに照らし合わせたり、日々のケア等を通して話し合い理解を深め、ケアに活かすことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通じて高齢者虐待の勉強会をする予定です。入浴時に全身チェックを行って傷の確認、アザの確認を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々に勉強をしていただいております。他に研修に行き、その内容を勉強会しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	来設時にご説明させていただいております。遠方の方には電話やお手紙にて通達を図っている。または、施設に見えたときに説明させていただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様から上がった意見は現場職員にミーティング時にお伝えさせて頂いております。反映させて頂き、申し送りをさせて頂いております。	入居者からは日々の暮らしの中で、家族からは運営推進会議や面会時、家族交流会等様々な機会を捉えて意見や要望を聞くようにしている。また、運営推進会議録を配布したり家族アンケートで意見を聞く機会を設けている。意見や要望はミーティング等で話し合い運営に反映させている。写真入りの状況報告を登載したホーム便り「絆」は、家族に安心を届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を個人面談や、業務終了後、休憩時に話を聞かせて頂いております。反映できる内容は稟議書を通して可決させて頂いております。	管理者は、ミーティングや個人面談、休憩時間や業務終了後等のチャンスを捉えて職員と個別に話し合い、意見や要望を聞き改善や運営に反映している。各フロアーのリーダーを中心に職員が話し合う機会を設けたり、管理者の方針等を伝達する仕組み作りに心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のモチベーション管理がまだできておりません。職員がやりがいを持てるように整えて行きたいとおもいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は社外研修に行っていただき、そのスタッフに社内研修を開催して頂いております。交換研修も視野にいれております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一部ではありますが、地域内にある施設の勉強会に出席させて頂いております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	スタッフ一人ひとりがニーズに応えられるように関係づくりに取り組んでおります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時やお電話での要望があるとき、その意見に耳を傾け、関係構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記と同様、ご家族様が思う内容にも耳を傾けよりよいサービスの向上に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割分担し、入居者様ができる力を継続できるように関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様より電話や面会時にコミュニケーションを図り関係の構築を図っています。また、交流機会を企画し、交流の場を設けております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は随時受付しております。友人や知人の方が見えたときはご家族様からの制限がなければ支援に努めております。帰られる際は「またお越しください」と伝えています。	知人の面会は人との関係支援を大切にし、年賀状を通して馴染みの人との関係を極力保てるように支援をしている。継続的に来訪してくださるボランティアや理・美容師、モーニングに行く喫茶店等新たな場所や人との関係を大切にし、馴染みの継続支援が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一つ屋根の下で暮らすと様々なトラブルはつきものです。いろいろなアプローチで輪に馴染めるようにしております。全員に声掛けを行いできるように心掛けております。また、ご気分やご機嫌により関係を構築できるように支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	残念ながら、連絡をしていないのが現状です。今後関係を継続に努めて行きます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	無理なお誘いせずに、ご本人の希望に合わせてケアをさせて頂いております。一番は1対1の入浴時間が気持ちを聴く良い機会です。	日々の関わりの中で向き合い傾聴を基本に、ゆっくりとした時間や回想法を用いて思いを聞くようにしている。無理強いせず、一人ひとりの表情やしぐさに気を付け自然体で接するように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや日頃のコミュニケーション時に把握に努めています。生活環境は居室を自由に使用して頂いております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に合わせた過ごし方は臨機応変に、心身の状態などは日々の申し送りにて現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	概ね3ヶ月に一回モニタリングし、ケアプランに反映し、個々に合わせた計画作成をしております。ミーティング時に全員でお話しし、ご家族様の声も反映に努めている。	計画作成担当者は日常のケアの中から得た情報や家族からの情報を基にケアカンファレンスで話し合い、現状に即した介護計画を作成している。月1回のモニタリングを行い、3ヶ月に1回見直しを行っている。変化があった場合は随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、業務日誌、申し送りノートにて日々の記録を記入しております。情報を共有し、ミーティングなどで見直ししております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズにより、管理者やスタッフで対応している。可能な限りではご家族様が主になって一緒に取り組む体制を構築したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだまだ全員の方が地域資源を活用できているか自信はもてません。ただ、ボランティアさんなど活用し楽しんで頂ける様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様は2週間に1回、認知症専門医の往診を受けています。本人が希望する医師への受診はご家族様に協力を得ています。都合の悪い場合や急変時は管理者、もしくは職員が対応。結果は電話にて報告します。	受診は本人や家族の希望を基本としている。2週間に1回の認知症専門医と内科の医師による往診を受けている。歯科医の往診もある。皮膚科、眼科等の専門科受診は原則として家族の協力を得ている。受診後の連絡は家族を含めて綿密に行い、申し送りノートや介護記録で周知を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護師はいない為、往診の先生やナースに相談し、助言を求めています。他には薬剤師にもご指導頂く。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は施設サマリーを提供し、お見舞いにも行きご本人のご様子を伺う。病院の看護師さんと連絡を取り合い関係の構築に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後の課題ではある。事業所内で終末期の話し合いをさせて頂きました。ご家族様や主治医と話し合いをし取組んでいく方向。	現在対象者はいないが、終末期に向けて事業所内で話し合いを行った。医療機関と職員の間で終末期のあり方について意見のずれが生じた。家族との意思確認は介護計画の見直し等の機会に行うこともある。	事業所として出来ること出来ないことを職員間でよく話し合い明確にしたうえで、家族とも話し合い、年1回は意思確認をしていくことを望みたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社外研修、救命講習を通して訓練しております。日中の対応は鉾の職員と協力できますが夜間の対応を身につけるように備える。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力体制はまだ乏しい。しかし、夜間想定で通報、初期消火、避難誘導を行っている。3日間ぐらいの貯蔵品を備える。	年2回の消防訓練を行っている。夜間想定訓練や避難誘導は、避難時間の測定をしたり、方法を工夫し改善への努力をしている。災害時における備蓄品の整備やチェック体制、職員緊急体制を整えている。地域の協力体制については引き続き努力をしていく方向である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々スタッフ一同対応させて頂いております。時折、言葉かけが尊重されていない、プライバシーの配慮が足りない時もあるので、職員のスキルアップをしています。	人生の先輩としての対応を基本とし、その人その人の個性を尊重したケアに心がけている。トイレや入浴時のプライバシーへの配慮、言葉がけなど日々の対応に心がけているものの、日常の中で配慮に欠けることもあると管理者は感じている。	日々のケアの中での気づきや具体的な事例を取り上げ、一人ひとりの人格の尊重、誇りやプライバシーについて話し合い、お互いに注意しあえる環境を作り、スキルアップにつなげることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の職員がご希望に添えるように選択肢を与えています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活ではあるので、ある程度統一はさせて頂いております。ただ、無理はさせずその人に合わせた支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の服装に合わせて支援させて頂いております。マニキュアを塗ったり毎朝、整容をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は好みのメニューを献立に取り組んだりしております誕生日には好きなメニューを取組む。またお手伝いは可能な限り支援させて頂いております。皆で協力し、後片付けをしている。他にはモヤシのひげ取り、テーブル拭きなど。	食前の嚥下体操や食後の口腔ケアが定着している。好みを取り入れた献立や四季の行事食、誕生日食、おやつ作り等も取り入れ食事を楽しむ多くの機会がある。職員も一緒に食事をし、雰囲気づくりや状態観察の機会としている。本人の力に応じた手伝いの支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や状態に合わせて対応をさせて頂いております。水分はチェック表を付け、一日の水分量を把握し、声掛けしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を促しております。なかなかトイレ誘導しても排泄できないこともあり今後もまだまだ課題点です。綿パンツに継続できるように支援しています。オムツにたよらない様心がけている。	排泄チェック表を改善し、個々の状態に応じてトイレ誘導を継続している。トイレでの排泄が維持できるように、思考錯誤を重ねながらの支援を重ねている。排便は下剤に頼ることを減らし、食物や水分摂取、運動等を取り入れ、排便コントロールに努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や乳酸菌など個々に合わせた対応をしております。踏み台昇降をして腸の動きを促し致します。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日夕方の3時30分～です。夜に近い時間帯に入浴して頂きます。風呂嫌いや洗髪を嫌がる、同じ服を着たがるなど個々の性格を把握し入浴を楽しんで頂いております。無理には入浴はさせずご本人の気持ちを優先にしております。	清潔で気持ちの良い入浴支援につなげていくために、昨日入浴していない方を優先的に支援している。入浴拒否や着替え、洗髪拒否等は個々の性格や習慣に配慮し工夫を重ねながら支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時は休んで頂く様支援しております。日中のリズムを作り夜間眠れるように心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員が薬の内容と副作用まで理解しているとは思いません。但し、薬ファイルの提示や薬ケースからとり間違えないようミーティングで統一しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴まで活かした役割を全員にはできていませんが、日々楽しんで頂ける様に気分転換をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別レクを提供し、毎日ではありませんが、喫茶やドライブ、買物など支援しております。ご家族様の協力は1組成功しております。	個別レクリエーションを取り入れ、好きな場所、行きたいところへ出かける支援をしている。家族に協力を求めて出かけることもある。定期的な喫茶やゴミ拾い、日常的な買物、散歩、月ごとの行事や外食、遠足や一泊旅行など多彩な外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様から許可を頂いて極力使えるように支援しております。金銭トラブルになるといけないので金庫にてお預かりしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りまでは支援されていません。年賀はがきは必ず支援しております。電話はご希望があれば支援させて頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾り付けや生活感をだし、居心地のよいように工夫させて頂いております。季節感の貼り出しや手作りにて壁画などを飾って楽しんで頂いている。	各ユニットとも、入居者の特質や能力を活かして季節を感じる手作りの作品を飾り、和やかな雰囲気を作りだしている。明るく穏やかな共用空間は、居心地のよい家庭的な雰囲気を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや玄関など個々の居場所の空間を利用して頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	正式契約の際には、使い慣れた物や希望に合った空間づくりをしております。以前から使用していたものを全て持ち込んでいただくよう工夫をしている。	入居者が使い慣れた調度品や写真等を持ち込み、自分らしい居室づくりを工夫している。入口には、入居者の特技を活かした似顔絵がそれぞれ貼っており、微笑ましい暖かい雰囲気を伝えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるように、居室の場所がわかるよう工夫しております。扉も矢印を設け開け閉めが出来るように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394700039		
法人名	株式会社 イズミ		
事業所名	グループホーム いわくらの泉 (2階)		
所在地	愛知県岩倉市八劔町井ノ下20番地		
自己評価作成日	平成25年07月31日	評価結果市町村受理日	平成25年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigvosyoCd=2394700039-00&PrefCd=23&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル2階		
訪問調査日	平成25年9月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「絆」をテーマに笑顔と心を大切にしている施設です。毎月恒例のモーニング、外食レク、春と秋の遠足、ボランティアさんによる催し物など行事満載です。地域との交流の場となるように目指しております。毎日午後から近くのスーパーへ買い物へ入居者様と行き、楽しんでおります。また今年から地域のゴミ拾いに入居者様と取組んでおります。主に入居者様には掃除、食器拭き、洗濯などを一緒にさせて頂いております。他には今年から散歩や踏み台昇降などリハビリにも午前中を中心に取組みました。午後からはレクリエーションを通して皆様と交流を図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所に詰所に貼り出し、常に目につくようにしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週1回 水曜日に町内のゴミ拾いを行っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	発信する場面が少なくなかなか話がしきれていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月に一回 定期的に関きご家族様より指摘があった場合にはすみやかにミーティングを開き対応調整している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設課・包括支援センターと連絡しあい他施設とも交流を図っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の事例はなし		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度的な知識に関しては勉強不足		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に必ず面接を行い、入所に関しての説明を行い契約している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に意見を聞きできる限り反映させている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングを開き職員の意見を聞き改善案があればその都度対応		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を行い意見を聞き設備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外・内部研修に参加する機会を設けて行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	頻回ではないが時々他施設と交流を図り向上に取り組んでいる。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限り本人の要望や希望を聴きとりケアに反応するように努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に面接を行い実施している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後様子観察を行いその時に必要なケアをするように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることや本人の居場所・役割を見つけ出し極力できることはやっていたくようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会にくる家族・来ない家族が極端であり、来られる家族は外泊・外出等に協力して頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会や使い慣れた調度品などをお持ち込んでもらったりして対応している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一つのことを皆で分担してお願いしたり外出時に車椅子を押して頂くなど適度に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	できていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的カンファレンスを開き個々のニーズに応えられるように努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	聞き取り時に趣味・嗜好品等を聴きだし把握するように努める		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	極力できることはやっていただくようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを開き反映している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・申し送りノートなどを活用して情報を共有して実践している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り対応ができるように取り組んでいるがまだ不十分		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	満族にはできていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診を設け緊急時などにも指示を受けられる体制作りをしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に日常生活の中での気づきや心配事などを相談するようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設サマリーで情報交換につとめている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	考慮中であるがこれからターミナルに取り組む方針でさる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を受講している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施して意識を高めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉かけ 言葉遣いに注意している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別ケアに取り組中である		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	概ねできていると思うが満足できるレベルには至っていない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	全員が同等レベルまで達していないが、心がけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる準備・片付け等は入居者様に手伝って頂いている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を記入し対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を参考に定期的に声掛け・誘導を実施している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別にヨーグルト摂取や下剤を使用して排便コントロールに取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できていない。毎日 午後の入浴で一日おきに入浴。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	概ねできていると思う		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	概ねできている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外食・買物時に同行して頂き、できる限り努力している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	満足ではないが、散歩の声掛け、喫茶・外食等実施している 地域協力はこれから密にしていきたい		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方は所持して頂いているが他の方は事務所に管理		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員からのアプローチはほとんどないが本人希望された場合は対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁面飾りも考えている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食人テーブル・椅子とは別にソファを置いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの調度品を使って頂きなどして対応している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の名前を貼ったりトイレ・避難口がわかるようにしている		